

研究・調査報告書

報告書番号	担当
1 8	滋賀医科大学社会医学講座福祉保健医学部門
題名 (原題/訳)	
Alcoholic beverages and risk of renal cell cancer. アルコール飲料と腎細胞癌のリスクについて	
執筆者	
Greving JP, Lee JE, Wolk A, Lukkien C, Lindblad P, Bergström A.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Br J Cancer. 2007 Aug 6;97(3):429-33.	
キーワード	
アルコール飲料、腎細胞癌、患者対照研究	
要 旨	
<p>目的：</p> <p>これまでの患者対照研究や前向き研究において、腎細胞癌と飲酒の間には負の関連があると報告されている一方、関連がないとする報告や、多量にビールを飲む人で関連の程度は強くないものの正の関連があるという報告もあり、見解は定まっていない。また負の関連があるとされた研究においては、ワイン、ワインと蒸留酒、ビール、ビールと蒸留酒で関連が強くなるなど様々な報告があり、どのアルコール飲料で関連がより明らかになるかについてもサンプルサイズが少ないなどの理由ではっきりしたことはわかっていない。よってアルコール飲料やトータルの飲酒量と腎細胞癌との関連について検討することとした。</p> <p>方法：</p> <p>スウェーデンの成人男女 (20-79 歳) を対象に、地域ベースで 855 人の腎細胞癌患者と 1204 人の対照を含む患者対照研究を行った。対象者にはどのアルコール飲料を飲むか、どの位の頻度で飲むかを郵送による自記式の質問紙で回答してもらった。</p> <p>結果：</p> <p>全く飲酒しない人と比べ、エタノールに換算して一ヶ月に 620g 以上飲酒する人で腎細胞癌のリスクが低かった (オッズ比(OR) 0.6、95%信頼区間(95%CI):0.4-0.9、トレンド p=0.03)。週にグラス 2 杯以上の赤ワイン (OR0.6、95%CI:0.4-0.9)、白ワイン (OR0.7、95%CI:0.4-1.0)、もしくは 100 グラムあたり 4.5g エタノールを含むビール(strong beer) (OR0.6、95%CI:0.4-1.0) を飲む人で腎細胞癌のリスクは 30-40%減少した。これらのアルコール飲料の飲酒量が増えるほど腎細胞癌のリスクが減るという明らかな線形性の傾向がみられた。</p> <p>結論：</p> <p>中等度の飲酒が腎細胞癌のリスク低下と関連がある。スウェーデン人では特にワインやある一定量のアルコールを含むビールと腎細胞癌のリスク低下との間に関連があった。</p>	